

競 技 注 意 事 項

1. 競技規則について

本大会は、2018 年度日本陸上競技連盟規則、ならびに本大会申し合わせ事項により実施する。

2. 札幌円山競技場使用上の注意

- 1) 当該種目競技者以外は、競技エリアへの立ち入りを禁止する。
- 2) 練習場所については、本競技場にはサブトラックがないため、トラック外側もスペースを使用してもよい。また、ホームストレートを使用しての練習は、第 1 日目および第 2 日目の競技開始の 15 分前までとする。
- 3) 投擲種目の練習は、投擲審判員の指示に従い競技開始前に競技場で行う。

3. ナンバーカードについて

- 1) 学連に登録した競技者は、各自の学連ナンバーカードを使用する。まだナンバーカードを受け取っていない競技者には、受付の際に団体ごとに学連ナンバーカードを配布する。
- 2) トラック競技の場合は、腰ナンバーカードをつける。また、5000m以上、3000mSC の競技の出場者は通しナンバーカードをつける（両方とも招集の際に競技者係で配布する。レース終了後、決勝点付近で速やかに回収する）。

4. 招集について

- 1) 招集時間・招集場所については、競技日程のページを参照のこと。
- 2) 混成競技の招集は、1 日目／2 日目の最初の競技種目が始まる 30 分前に行い、以後の招集は行わない。競技者は、次の種目の実施場所に移動し、競技役員の指示を受ける。
- 3) 競技者が他の種目に出場中の場合のみ、代理人による点呼を認める。
- 4) 同一時間に複数種目に出場する場合、その旨をあらかじめ競技者係に伝えておくこと。
- 5) 招集完了時間に遅れると、当該種目を棄権したものとみなすので、注意すること。
- 6) リレー種目は、オーダー用紙（本部受付に用意）に走順・ナンバー・名前を記入し、招集完了の 1 時間前までに競技者係に提出すること。なお、出場チームの棄権により予選ラウンドがなくなった場合及び決勝ラウンドのみの場合は、予選ラウンドを一度行っているものとみなす。

5. 棄権について

大会当日、やむなく棄権する場合は、棄権届け（本部受付）に必要事項を記入し、競技者係と大会本部へ提出すること。

6. 競技の抽選・番組編成について

- 1) フィールド競技の試技順は、プログラム記載順とし、練習は審判員の指示に従って行う。
- 2) 準決勝以降の組み合わせ、およびレーン順は、主催者が抽選する。
- 3) 同タイムの競技者（チーム）があり、レーンが不足する場合は、写真を拡大して、次のラウ

ンドへの進出者を決める。それでも決まらない場合は、当該競技者もしくはその委任を受けた代理人により抽選を行い、決定する（規則第 167 条参照）。

7. 用器具について

競技に使用する用器具は、すべて主催者側が用意したものを使わなければならない。ただし、やりは個人所有のものを使用することができ(招集完了時間 1 時間前に用器具庫で各々検査を受けて許可されたものに限る)、棒高跳用ポールは個人所有のものを使用する。前者は他の競技者も使用でき、後者は所有者の同意がある場合にのみ使用できる（規則第 183 条 11 項）。

8. トラック競技について

- 1) すべて写真判定とするが、万一、機器が故障した場合は、手動計時に切り替えて継続する。
- 2) 5000m 以上の競技については、気象状況により、給水を行うことがある。
- 3) 次の種目は、競技進行に遅れを生じさせる恐れがある場合のみ、次の条件で打ち切ることがある。制限時間は以下の通りとする。

男子 5000m	20 分 00 秒	女子 5000m	25 分 00 秒
男子 10000m	45 分 00 秒	女子 10000m	45 分 00 秒
男子 10000mW	60 分 00 秒	男子 3000mSC	15 分 00 秒

9. フィールド競技について

- 1) フィールド競技における競技場内での練習は 2 回とし、すべて競技役員の指示に従う。
- 2) 跳躍競技でのバーの上げ方は下記の通りとするが、状況により変更することもあり得る。

男 子 走高跳	練習 1m70	1m75 より 5 c m	1m95 より 3 c m
棒高跳	3m00	3m00 より 20 c m	4m00 より 10 c m
女 子 走高跳	練習 1m40	1m50 より 5 c m	1m70 より 3 c m
棒高跳	練習 2m00	2m10 より 10cm	
男子混成 走高跳	練習 1m45	1m50 より 5 c m	1m80 より 3 c m
棒高跳	2m80	2m80 より 20 c m	4m00 より 10 c m
女子混成 走高跳	練習 1m20	1m25 より 5 c m	1m45 より 5 c m

- 3) 走幅跳では、男子 5m00 / 女子 4m00 に満たない記録は、計測しない。

三段跳では、男子は 12m 板を、女子は 8・10m 板を使用する。

ハンマー投では、男子は 20m00 に満たない記録は、計測しない。

なお、この条件については状況により変更する場合もある。

10. 表彰について

各種目第 3 位までの入賞者を表彰するので、該当者は競技終了後、表彰席前に集合すること。

11. 抗議について

- 1) 競技進行中に起きた競技者の行為、または競技成績に関する抗議は、その競技者あるいはチームの代表者により結果が正式発表(アナウンス)されてから 30 分以内(予選、準決は 15

分以内)に、総務員を通して口頭で審判長になされなければならない。時間以内に申し出がなければ、何ら問題はなかったものとみなされる。

2) 抗議に対して審判長は速やかに裁定する。その裁定を不服とし、さらに抗議する場合は、抗議申立書と預託金 10,000 円を添えて上訴する。この預託金は、抗議が受け入れられなかった場合は没収される。

3) この間の事務処理は総務員が行い、抗議者は大会本部で待機する。

12. その他

1) 競技者の衣類の管理は、すべて各自で行う（役員・補助員による運搬は行わない）。

2) 盗難・紛失について、主催者で受領した物品等については一時保管するが、その他のものについては一切責任を負わない。なお、主催者で受領した物品等は大会本部で管理する。

3) 応急処置について 競技中の事故等による身体の故障の場合、医務員が応急処置を行うが、その後の治療等は本人負担とする（競技者保険の適用）。また、事故の結果について本連盟は一切責任を負わない。医務室は、競技場正面入り口に入って、右側に設置する。

4) 集団応援は、メインスタンド以外の区域で行うこと。

5) 札幌円山競技場の開門時間は、両日とも午前 7 時とする。

閉門時間については、競技終了後にアナウンスする。開・閉門時間は厳守すること。

6) 大会期間中に出たゴミは、各自の持ち帰りとする。分別を徹底すること。

7) 競技者（選手）がカメラで撮影されることによって嫌悪や不安に感じられる場所からの撮影は禁止する。また、撮影している場所によっては不審と判断された場合、競技役員が注意・指導、撮影内容の確認をする場合もある。

8) 不審者等を発見した場合、大会本部まで連絡すること。

9) その他、不明な点は大会本部に問い合わせること。